

令和4年7月20日

令和4年度第1回消費生活意識調査結果について

1. 調査の目的とテーマ

「消費生活意識調査」では、消費者の意識や行動、消費者トラブルの状況等について、隨時調査を実施しています。令和4年6月から7月にかけて、「子供の製品・サービスの安全」を中心に調査を行いました。

2. 調査の方法

全国の15歳以上の男女5,000人を対象に、インターネットによるアンケート調査を実施。

3. 調査結果のポイント

(1) 「乳幼児の育児中の事故の経験」について

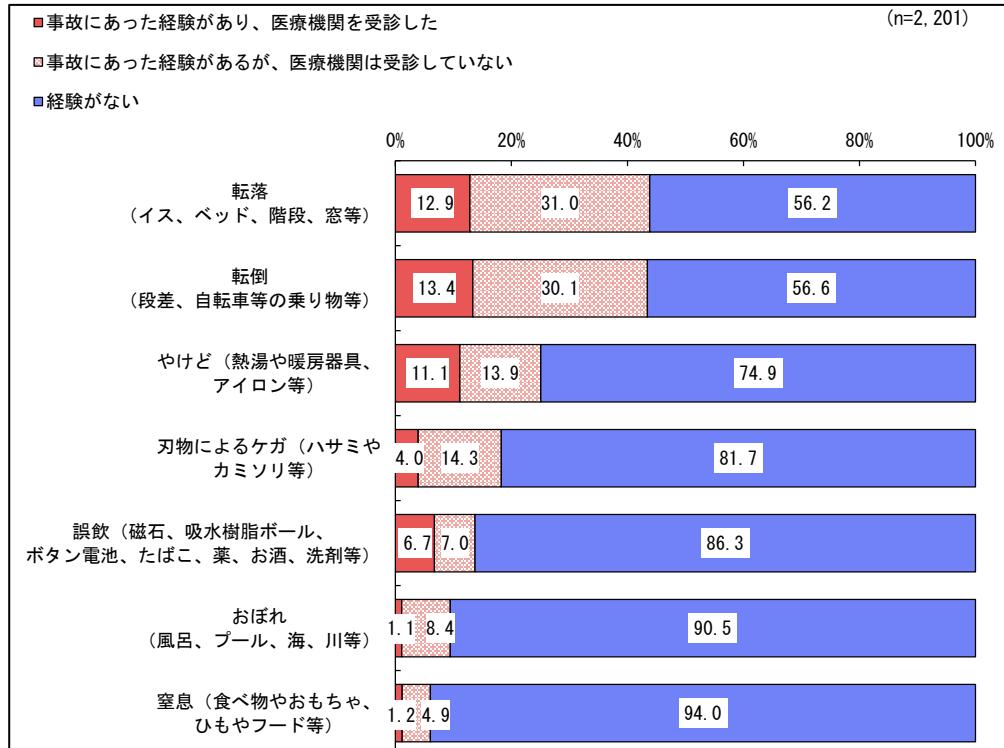
○乳幼児の育児経験がある人のうち、約4割が「転落」、「転倒」の事故を経験。

- 事故の経験があると回答した人の割合は、「転落」が43.8%、「転倒」が43.3%で、他の事故と比較して割合が高かった。

○乳幼児の「やけど」、「誤飲」を経験した半分近くが医療機関も受診。

- 事故の経験があると回答した人のうち、医療機関を受診させた経験のある人が占める割合は「やけど」が44.4%、「誤飲」が49.0%で、他の事故と比較して割合が高かった。

図1. 乳幼児の育児中の事故の経験

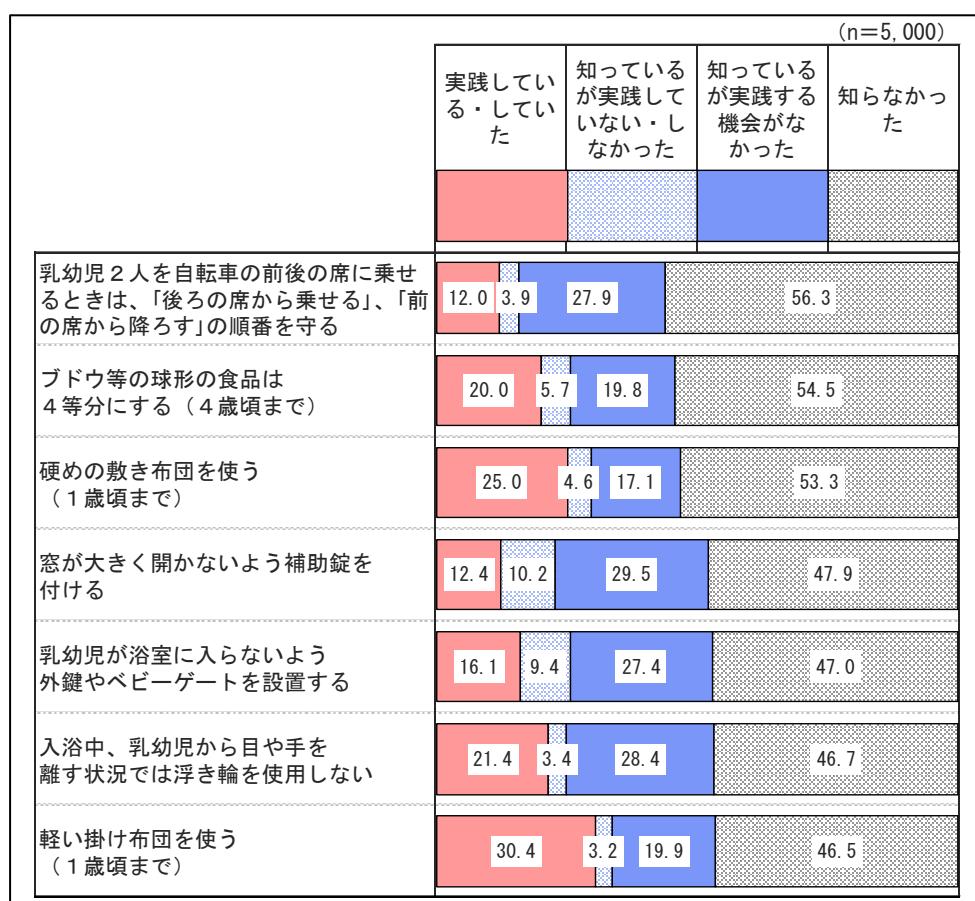


(2) 「乳幼児の事故対策の認知度」について

- 事故対策のうち、乳幼児を自転車に乗降させる際の正しい順序や、ブドウ等の球形の食品は4等分して与えること、硬めの敷布団を使うことについては、半数以上が認知していない。
- ・ 乳幼児を自転車に乗降させる際の正しい順序については 56.3% の人が、ブドウ等の球形の食品は4等分して与えることについては 54.5% の人が、硬めの敷布団を使うことについては 53.3% の人が認知しておらず、これらの事故対策が最も認知率が低い。

図2. 乳幼児の事故対策のうち認知率が低いもの（下位7項目）

（「知らなかった」と回答した割合）



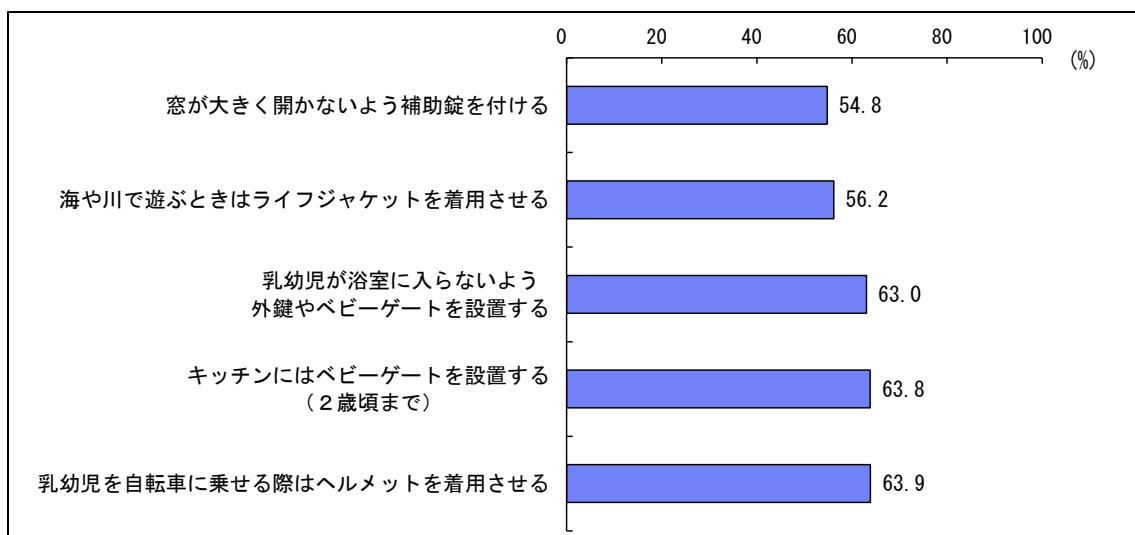
(3) 「事故対策の実践状況」について

○事故対策を認知しているながら実践している割合が低い項目は、事故対策用の物品を別途用意する必要があるものに集中。

- 「窓が大きく開かないように補助錠を付ける」、「海や川で遊ぶときはライフジャケットを着用させる」等の実践割合が最も低い5項目は、いずれも補助錠やライフジャケット等、事故対策用の物品を別途用意する必要があり、事故対策を認知しても5割から6割の人しか実践していない。

図3. 乳幼児の事故対策のうち実践率が低いもの（下位5項目）

（事故対策として認知している人のうち、「実践している・していた」と回答した人の割合）



調査に関する問合せ先

消費者庁参事官（調査研究・国際担当） 當麻、野下、都筑

TEL : 03(3507)9330（直通）

内容に関する問合せ先

消費者庁消費者安全課 北島、峯、伊川

TEL : 03(3507)9202（直通）